記者発表資料

がんばろう！東北

平成２９年１０月２７日
東北地方整備局

平成２９年１１月５日 「津波防災の日」に 八戸港で地震・津波防災訓練を実施します

東北地方整備局は、「津波防災の日」の１１月５日（日）に、八戸港において、関係行政機関、災害協定締結団体及び八戸港港湾機能継続協議会など約１５０名の参加者により、地震・津波防災訓練を実施します。

本訓練では、津波避難訓練をはじめ八戸港港湾BCP（八戸港港湾機能継続計画）に基づく手順や災害協定に基づく航路啓開手順の確認など、訓練を通じて港湾関係機関との連携の強化と職員の災害対応能力の向上を図ります。

なお、当日は北陸地方整備局（新潟港湾・空港整備事務所所属）の大型浚渫兼油回収船「白山」が訓練（緊急物資輸送）に参加します。

訓練終了後には「白山」の一般公開を別添のとおり予定しております。

【訓練の概要】

１．訓練日時：平成２９年１１月５日（日）　９時３０分～１１時３０分

２．訓練実施場所：
八戸港河原木１号埠頭Ｃ・Ｄ岸壁（青森県八戸市豊洲）（別紙１参照）

３．主催及び訓練参加団体：別紙２参照

４．訓練内容：
（１）初動対応訓練
（２）被害状況把握と優先復旧施設決定訓練
（３）航路啓開・施設応急復旧訓練
（４）緊急物資輸送訓練

５．取材について：
取材をご希望の報道機関の方は、別紙３「取材申込書」により１１月２日（木）１２時００分までに事前申込みをお願いいたします。

※　当日の気象条件等により、訓練を中止する場合があります。
※　取材時は事故・トラブル等が発生しないよう担当者の指示に従っていただくほか安全に充分注意して下さい。

【参考】

〈「津波防災の日」及び「世界津波の日」について〉

平成２３年３月の東日本大震災では甚大な津波被害が発生したことから、同年６月、津波被害から国民の生命、身体及び財産を保護することを目的に「津波対策の推進に関する法律」が制定され、１１月５日を「津波防災の日」とすることが定められました。

平成２７年（２０１５年）12月の国連総会で、11月5日が「世界津波の日」として制定されました。

〈大型浚渫兼油回収船「白山」について〉

平常時には航路等の水深を確保するための浚渫を行うほか、海上事故等によりタンカー等から大量に流出した油を回収する機能を有しており、国土交通省が所有する３船のうち新潟港湾・空港整備事務所に所属する船舶です。

＜発表記者会　宮城県政記者会　東北電力記者会　東北専門記者会
青森県政記者会　八戸市政記者クラブ　＞

【問合せ先】国土交通省 東北地方整備局 港湾空港部 港湾空港防災・危機管理課
電話　０２２（７１６）００２４
課長 吉田　久隆、課長補佐 川井　茂、課長補佐 松本 宏行
国土交通省 東北地方整備局 八戸港湾・空港整備事務所
電話　０１７８（２２）９３９１
副所長　高橋　昭、副所長　鈴木　真司、企画調整課長 大山　幹友

【訓練実施場所】 八戸港河原木1号埠頭C･D岸壁（青森県八戸市豊洲）





この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。【承認番号 平29東複 第33号】

別紙　２

主催及び訓練参加団体

（１）主催

・東北地方整備局、八戸港湾・空港整備事務所

（２）関係行政機関

・北陸地方整備局、新潟港湾・空港整備事務所
・第二管区海上保安本部、八戸海上保安部
・青森県
・八戸市

（３）災害協定締結団体

・一般社団法人　海洋調査協会
・一般社団法人　港湾技術コンサルタンツ協会
・一般社団法人　日本埋立浚渫協会　東北支部
・一般社団法人　日本海上起重技術協会　東北支部
・一般社団法人　日本潜水協会
・全国浚渫業協会　東日本支部
・東北港湾空港建設協会連合会
・一般財団法人　港湾空港総合技術センター　東北支部

（４）関係団体

・八戸圏域水道企業団
・公益社団法人　青森県トラック協会
・八戸港港湾機能継続協議会（八戸港港湾BCP協議会）
・東北港湾空港防災エキスパート会

別紙 3

国土交通省東北地方整備局
八戸港湾・空港整備事務所 企画調整課 宛

申込先（FAX）0178－45－7239

取 材 申 込 書

取材を希望する場合は、この様式により、FAXにてお申込み下さい。
申込み締切は、11月2日（木）12時00分とさせていただきます。

平成 年 月 日

所属記者会（所属する記者会に○をつけて下さい。）
・宮城県政記者会 ・東北電力記者会 ・東北専門記者会 ・青森県政記者会 ・八戸市政記者クラブ
会社名及び部署名
取材者の役職・氏名・連絡先・人数
役 職 氏 名
連絡先（携帯番号等）
人 数

上記のとおり、取材を申し込みます。

注 意 事 項

1． 事故防止のため、取材にあたっては担当者の指示に従ってくださるようお願いいたします。
なお、訓練会場の背後に鋼材を積み上げております。鋼材の上にあがっての撮影は危険なため行わないようにお願いいたします。

2． 会場近くに駐車場があります。
別紙1をご覧ください。

3． 当日受付は午前9時00分より行います。（受付終了は9時25分です。）
会場テント内の受付にてお願いいたします。

別添1

大型浚渫 兼 油回収船「白山」船内一般公開

- 「白山」は、港の機能を守ための浚渫を行うほか、平成９年のナホトカ号油流出事故のような大型タンカーなどから大量に流出した油を海上で回収する等の機能を有しており、国土交通省が所有する３船のうち北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所に所属している船舶です。
- 「白山」は、2011東日本大震災や2016熊本地震において、緊急物資輸送等の支援を行っています。
- 船内では、海上で油回収を行うための装置などを見学することができます。

白山

総トン数	4,185 t
全長	93.9 m
全幅	17 m
泥艙容量	1,380 ㎥
回収油水槽	1,530 ㎥



公開日時

11月5日(日)

午後　1時30分 ～ 3時30分
（受付は1時30分 ～ 3時まで）

会　場

八戸港 河原木１号埠頭
C・D岸壁

見学無料
事前申し込み
不要です!

［お問い合せ］国土交通省 東北地方整備局
八戸港湾･空港整備事務所
TEL0178－22－9391

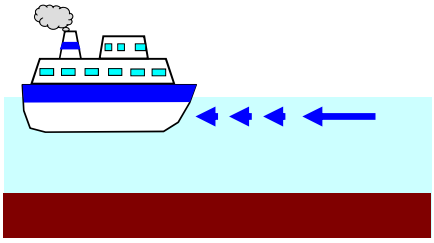
※ 荒天等により、やむをえず中止する場合があります。
※ 現地にて受付け後に、随時乗船していただきます。
※ 駐車場は、河原木埠頭内の駐車場をご利用下さい。
※ 船内は段差が多いため、サンダル、かかとの高い靴等での乗船はご遠慮下さい。

別添2

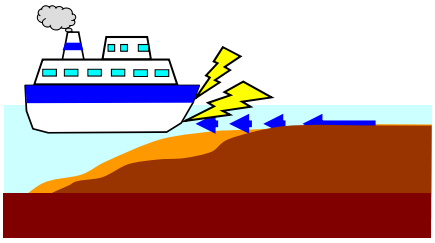


港の機能を守るための浚渫（土砂を取り去る作業）

浚渫とは、川底や海底の土砂を取り除いて水深を保つ作業です。新潟西港は信濃川の河口に位置しているため大量の土砂が流れ込みます。これを放置しておくと、大型船の航行が困難になるため、２４時間体制で浚渫作業に従事しています。



① しっかりと水深が確保されていれば安全な航行が可能



② 土砂が堆積することで安全な航行が出来なくなる



③ 白山は船舶航行の安全を確保するため堆積した土砂を２４時間体制で浚渫作業に従事しています。

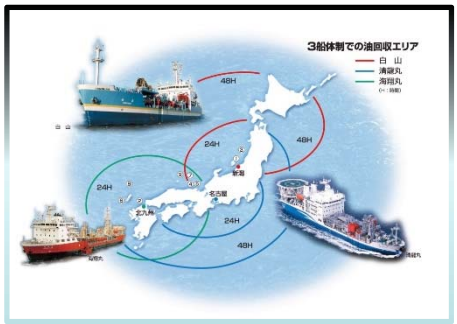
海の環境を守るための油回収

１９９７年（平成９年）のナホトカ号の油流出事故では、日本海側の各地で周辺環境や海洋水産資源に大きな被害が発生しました。この事故を教訓に、日本海域の環境を守るため油回収装置を装備し油回収作業に従事します。





取り込んだ油と水はサイクロン室で遠心分離され、給水ポンプで油分だけが船内の回収油水槽へ送られます。





平成９年に福井港沖で発生したナホトカ号油流出事故で、三国町の海岸に漂着した油を人力で回収している様子。

３船体制での油回収エリア

名古屋港の「清瀧丸」、北九州港の「海翔丸」、新潟港の「白山」の３船で日本近海の油流出事故に備えています。
「白山」は日本海近海を２４時間以内で出動が可能で、北海道周辺海域でも４８時間以内に回収作業を行うことができます。

資料提供：北陸地方整備局　新潟港湾・空港整備事務所